

英語科学習指導案

日 時 平成29年2月23日(木) 4校時
児 童 4年生
授業者
授業場

1 単元名「どうしたのですか」

2 単元の目標

相手の様子を尋ねる活動を通してジェスチャーの有用性に気づき、相手を気遣う言葉や自分の体調不良を伝える表現を身に付け、場面や状況に応じた方法で積極的に自分の体調を伝えることができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元では、“What’s wrong?” “Take care.”という相手の様子を伺ったり気遣ったりする表現と、“I have a cold.” “I have a headache.” “My finger hurts.”などの自分の体調の悪さを表す表現を扱う。

コミュニケーション図る際には、相手を尊重した伝え合いになるように、目的・場面・状況等を明確にし、言葉の抑揚・表情・ジェスチャーなどを意識して伝えることが大切である。本単元は、相手の体調を気遣ったり、自分の体調について伝えたりする表現を身に付けるとともに、コミュニケーション活動を通して、どのような相手にどのような状況で伝えるのかを考えた相手を尊重した伝え合いとなる表現の仕方を学ぶことができる単元である。

(2) 目指す児童・生徒像

児童は、3年生では「友達を遊びに誘おう」という単元で、4人で友達を遊びに誘う場面を考え、既習の表現と新出の表現を組み合わせて、複数の児童と様々なコミュニケーションを図る場面を演じる学習を経験している。その際、表情やジェスチャーを意識しながら見ている人にわかりやすく伝わるには、どうしたらいいか考え、工夫して伝えることができた。4年生ではこれらの経験を生かし、ペアで相手を気遣ったり自分の体調を伝えたりするスキット創りをする。積み重ねてきた表情やジェスチャーの有用性を改めて確認した上で、具体的に「だれが」「どこで」などのコミュニケーションの状況の設定をすることによって、一層実生活に近いコミュニケーション場面になるようにし、場面や状況に応じた表現や伝え方を工夫することを通して、伝えたいことを積極的に表現しようとする態度を養うことを目指している。

(3) 指導観

上記を踏まえ、本単元では場面や状況に応じて自分の考えや情報を伝えることができるようになることを目指し、表情やジェスチャーを大切にしながら、身に付けた表現の内容を状況に応じて変化させるという思考を促すようにする。そのためには、単元の序盤でゲーム等を通して身に付けるべき表現を何度も聞いたり言ったりし、聞く・まねる・話す活動の構成を工夫することによって自信を持って表現を身に付けていくことが前提となる。単元中盤では新出表現を使って、どのような場面なのかが見ている人に伝わるスキット創りを目指し、児童の興味・関心を踏まえた伝えたい内容を取り扱うことで、主体的な学びを促

すようにする。その際には、これまでの学習で積み重ねてきた表情やジェスチャーを意識させることによって相手に伝わる表現となるようにする。また、コミュニケーションの場面や状況を設定してスキットの内容を見直すことによって、場面や状況にふさわしい表現の内容にし、それに付随して表情やジェスチャーの仕方も変わるように思考を働かせるようにし、スキットが実生活に近いコミュニケーションの場面になるようにする。単元終盤では、知識・技能を用いて、どのような方法と考え方を使って工夫して伝え合うことができたのかを振り返ることによって、学びに向かう力を高めていくといった単元の構成をする。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本単元では、スキットにおいて「誰と誰が」(知らない人同士・医者と患者・友達同士)「どこで」(病院・公園・家)等、状況を具体的に設定し、その状況にふさわしいスキットの内容を考える。その際、これまでに積み重ねてきた他者に合わせたコミュニケーションの回り方や、状況にふさわしい話し方・動き方、英語の学習で身に付けてきた表情やジェスチャーの仕方を基に、対話的な学びが生まれる。また、スキット創りを通して気付くことができた新たな見方・考え方を実際のコミュニケーション場面でも今後活用していくことが深い学びへと繋がっていく。

4 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションを 支える技能	言語や文化に関する 気付き
ア 相手の様子を伺ったり気遣ったりする表現や自分の体調の悪さを表す表現を聞いて反応したり、発音をまねようとしたりしている。	ア “What’s wrong?” などの相手の様子を伺ったり気遣ったりする表現と，“I have a cold.” などの自分の体調の悪さを表す表現を友達とのやりとりの中で言うことができる。	ア have にはいろいろな意味があることに気付いている。
イ 表情やジェスチャーを大切にしながら相手の様子を伺ったり気遣ったりする表現や自分の体調の悪さを表す表現を使って、進んで表現しようとしている。	イ 場面や状況にふさわしい表現になるように内容を考え、それに付随する表情やジェスチャーを工夫している。 ウ 場面や状況を設定し、ふさわしい内容、表情やジェスチャーでスキットを表現することができる。	イ 歯が痛いことや頭痛の単語は終わりに「ache」が共通していることに気付いている。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
映像によって、相手を気遣う言葉や自分の体調不良を伝える表現と出合わせ、新出表現の意味や活用場面を予想しながら単元で身に付けていく表現に見通しを持ったり、児童の学習意欲を高めたりする。	<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を気遣う言葉や自分の体調不良を伝える表現と出合う。 ・表現の意味を予想したり、場面を想像したりする。 ・ゲーム等を通して新たな表現を身に付ける。 <p style="text-align: center;">関ア気ア・イ</p>	<p>相手にわかりやすく伝えるためには、表情やジェスチャーを意識して伝えるということを、できている児童の見本を示して全体で共有する。</p>

<p>聞く・まねる・言う活動の順に活動を構成する。それらの活動を何度も繰り返し聞いたり言ったりすることで、新出表現を楽しみながら身に付けていけるようにする。</p>	<p>2 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の成果を4年生同士で見せ合う『It's 匠 time.～となりのクラスの仲間にスキットを show!!』に取り組んでいくことを知り、学習の見通しを持つ。 ・新出表現の中から表現を選択し、ペアでスキットを創り表現する。 <p style="text-align: right;">技ア</p>	<p>スキット1とスキット2を比較し、「誰と誰が」「どこで」やりとりをしているのかわかる2が一層わかりやすいスキットになっていることに気付くようにする。</p>
<p>スキット発表後に、伝えることができた理由や、どのような方法や考え方を使って伝えたのかなどを振り返る。そうすることにより、表現を言えるようになったという実感だけでなく、新出表現を実生活中で活用することに繋がったり、場面や状況に応じて伝える方法を習得したりできるようにする。</p>	<p>3 時間目（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに作ったスキットに新たな状況設定を加え、見方・考え方を働かせて一層場面にふさわしい表現を目指す。 <p style="text-align: right;">技イ</p>	<p>コミュニケーションを図る相手や場所を具体的に挙げて板書し、「誰と誰が」「どこで」を設定して内容を構成すると、内容や言い方が変化し、表情やジェスチャーが豊かになることに気付かせる。</p>
	<p>4 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキットを発表し、できるようになったことを実感する。 ・どのような見方・考え方を使ってできたのかを振り返る。 <p style="text-align: right;">関イ 技ウ</p>	<p>状況にふさわしいコミュニケーション場面になるようスキットの内容や表情・ジェスチャーを考える場を設定する。</p>

6 本時について（3／4時間目）

（1）本時の目標

“What’s wrong?” などの相手の様子を伺ったり気遣ったりする会話表現と、“I have a cold.” などの自分の体調の悪さを表す会話表現を使って、伝える相手や状況にふさわしい表現になるようにスキットを考えることができる。

（2）本時における研究の視点

本時においては、主に多面的・多角的な視点を持たせ、表現を工夫・検討する場を設定する手立てを講じていく。スキット1（表情・ジェスチャーのみ意識している映像）とスキット2（状況がはっきりして内容にふさわしい表情やジェスチャーになっている映像）とでは、「どちらがよいスキットか」「なぜそう言えるのか」などと問い、理由を述べ合いながら交流させる。二つの映像を比較させることによって、スキット2が相手や場所をはっきりさせて会話しているため、表情やジェスチャーがその状況にふさわしいものになっていることに気付くようにする。また、相手や場所が変化することで、用いる表現や言い方、表情、ジェスチャーがどのように変化するのかを全体で確認し、状況設定の有用性を理解した上で相手や場所を明確にしたスキットになるように表現を創り直すようにする。身に付けた知識・技能を使って、相手や場所といった他者との関わりに着目するという見方をし、その状況にふさわしい表情やジェスチャーになるよう工夫して考えることをねらいとしている。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 身に付けてきた表現を復習する。</p> <p>・言い方を確かめられてよかった。 ・自信を持って言えるようになったな。</p> <p>2 本時の課題を確認する。 『It's 匠 time.～となりのクラスの仲間にスキットを show!!』に向けて、わかりやすく演じよう。</p> <p>3 相手を気遣う表現や自分の体調を表す表現のスキットをペアで練習する。</p> <p>・友達と一緒にだから心強いな。 ・表情やジェスチャーをはっきりさせてできようになってきたよ。 ・スムーズに言えるようになってきたよ。</p> <p>4 目的に即したスキットになっているのか確認する。</p> <p>・まだ「匠」とは言えないな。 ・もっとよくなる方法を知りたいな。</p> <p>5 二つの映像を比較する。</p> <p>・自分たちはスキット1の方に近いな。 ・スキット2の方がいいと思う。 ・スキット2は本当の場面みたいでいい。 ・ジェスチャーや表情がスキット2の方がわかりやすい。 ・だれがどこで話しているのかがわかる。</p> <p>6 相手や場所を明確にしたスキットの変化を確認する。</p> <p>・相手や場所をはっきりさせるとそれに合わせた表情やジェスチャーになるんだ。 ・知らない人だったら Excuse me. と話しかけるんじゃないかな。 ・ケガをした所から見ていたら, What's wrong? とは言わないんじゃないかな。 ・Hospital や Park, School などこれまでで習ったから使えそうだね。 ・本当の場面みたいに創れそう。</p> <p>7 ペアでスキットの内容をもう一度考え、創ったり練習したりする。</p> <p>・友達同士で遊んでいる場面にしよう。 ・楽しそうに遊んでいる所から始めよう。 ・サッカーだから足のケガにしようか。 ・体を支える動きがあってもいいね。</p> <p>8 今日の授業を振り返る。</p> <p>・相手や場所をはっきりさせると、表情やジェスチャーもそれに合わせて表現できることがわかった。 ・前よりわかりやすいスキットを創ることができた。 ・1組のみんなと見せ合うのが楽しみ。</p>	<p>□全員で表現を復習し、言えるようになったことを価値づける。 A-①</p> <p>□子供たちと一緒に前時までを振り返り、今日の課題を確認する。</p> <p>□即時的にフィードバックする。 ○表情やジェスチャーを意識するとわかりやすいスキットになるんだね。 □板書に表情とジェスチャーを明記しておき、常に意識できるようにする。 ○相手に伝わりやすい表現になってきたね。</p> <p>□課題を再確認し、目的にあったスキットになっているのかを振り返れるようにする。</p> <p>□スキット1とスキット2を比較させ、「どちらがよいか」「なぜか」などと問い、スキット2のよさに気付くようにする。 □相手の例、場所の例を組み合わせ提示し、どのような会話ができそうか考えさせることによって、相手・場所を明確にすると会話の言い方や内容が異なり、表情やジェスチャーを工夫できることに気付くようにする。 □使えそうな既習の表現を板書し、スキットの内容を考える時に思い出せるようにする。 □相手・場所を明確にして、もう一度スキットを考えたり練習したりするように促す。 手立て</p> <p>□相手や場所を明確にし、表情やジェスチャーが豊かになったペアに演じてもらい、価値づける。</p> <p>□わかったこと、できたこと、どうしてできたのか、やってみようことなどを問いながら、言語面・内容面の両方について振り返る。 □次時が単元の最後であることを確認する。 A-②</p>	<p>【評価】 個に応じた指導 (▲)</p> <p>▲不安のある表現がある児童は全体で確認し、自信を持って言えるようにする。</p> <p>【技能イ～発言・観察ワークシート】</p> <p>▲具体的な相手や状況が設定できないペアや、表現が思いつかないペアには、一緒に考えたり、見本をまねたりして表現できるように促す。</p> <p>【技能イ～振り返りシート】</p>